

農林水産省登録第 13873 号
 性状：類白色微粒および粗粉
 63 ~ 212 μ m

毒性：劇物
 有効年限：5 年
 包装：3kg \times 8
 ㊞は登録商標

カルホス[®]微粒剤F

(イソキサチオン粉粒剤)

有効成分：イソキサチオン (PRTR 法第 1 種-250 号) …3.0%

特長

- 飛散が少なく、作業が簡単です。
- ネキリムシ、ハリガネムシ、コガネムシ、タネバエなど
地下部を加害する土壤害虫にすぐれた効果があります。
- 作物への吸収移行がありません。
- 土壌中での適度の残効性があります。
- 悪臭や刺激性がなく、使いやすいです。
- 播種前・植付時の土壌混和处理で安定した効果があります。

適用病害虫名と使用方法

平成 28 年 12 月現在の登録内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソキサチオンを含む農薬の総使用回数	
りんご	モモシンクイガ	5kg/10a	夏繭當繭時～第一世代成虫羽化期	4 回以内	地表面散布	4 回以内	
キャベツ はくさい	ネキリムシ類	6kg/10a	は種時又は植付時	1 回	土壌表面散布 土壌混和处理	1 回	
レタス 非結球レタス				2 回以内		2 回以内	
だいこん			は種時～生育初期 但し、収穫 30 日 前まで	1 回		1 回	1 回
エンダイブ			定植時				4 回以内 (は種時は 1 回以内、 植付時は 1 回以内、 植付後は 2 回以内)
ねぎ			は種時 植付時	2 回以内		2 回以内	2 回以内
わけぎ あさつき			は種時又は植付時				2 回以内

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソキサチオンを含む農薬の総使用回数
だいず	タネバエ		は種時	2回以内		2回以内
	ネキリムシ類		は種時又は定植時			
えだまめ	タネバエ ネキリムシ類	6kg/10a	は種時	1回	土壌表面散布 土壌混和处理	5回以内 (粉剤及び粉粒剤のは種時の処理は合計1回以内、粉剤及び粉粒剤の定植時は合計1回以内、粉剤の土壌表面散布は1回以内、粒剤の土壌表面株元処理は2回以内)
	ネキリムシ類		定植時			
いちご (仮植床)	コガネムシ類 幼虫	9kg/10a	植付時	1回	作条処理 土壌混和 植穴処理 土壌混和 作条処理 土壌混和 土壌表面散布 土壌混和处理 株元散布	1回
食用ぎく	ネキリムシ類	6kg/10a	定植時			
しゅんぎく		株当り 3g				
かぼちゃ すいか						
ほうれんそう	タネバエ	6kg/10a	は種時	1回	土壌表面散布 土壌混和处理 株元散布	2回以内
もりあざみ	ネキリムシ類		収穫 21 日前まで			
ほうきぎ			定植時			
たばこ	ネキリムシ類 ハリガネムシ	6~9kg/ 10a	植付前	1回	土壌表面散布 土壌混和处理	2回以内
花き類・ 観葉植物	カブラヤガ	6kg/10a	定植時	1回	作条処理 土壌混和	1回

■■■ 効果・薬害等の注意 ■■■

- りんごのモモシンクイガ（シンクイムシ）に対する地表面散布では、次の注意を守る。
 - 地表面散布はシンクイムシの密度低下を目的とし、必ずシンクイムシ防除剤による樹上散布を併用する。
 - 地表面に均一に散布し、土壌混和はしない。
 - 発生予察に注意し、時期を誤らないようにする。
 - 散布適期は夏繭営繭時から成虫羽化初期（6月中旬～7月）であるが、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- キャベツ、だいずを使用する場合は、植溝又は播溝に幅広く散布し、土壌とよく混和する。植穴又は播穴処理はさける。
- たばこに使用する場合は、植付ける作条に幅広く散布し、土壌とよく混和する。植穴処理はさける。
- いちごに使用する場合は、仮植床全面に均一に散布し、表土とよく混和する。
- つまみ菜・間引き菜には使用しない。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に対しては、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

■■■ 安全使用上の注意 ■■■

- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。
- ミツバチに対して影響があるので、ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにする。
- 体調の悪いとき、妊娠中、飲酒後等は取扱い及び作業をしない。
- 作業中は防護マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用する。
- 作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
- 医薬用外劇物。取扱いには十分注意。誤って飲み込んだ場合は吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせる。使用中に異常を感じた時は直ちに医師の手当を受ける。
- 火災時は、適切な保護具を着用し水・消化剤等で消火に努める。
- 漏出時は、保護具を着用し掃き取り回収する。
- 移送取扱いはていねいに行う。

解毒剤…硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤。

魚毒性等…一時に広範囲に使用する場合は十分注意。

保管…密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。カギをかける。
盗難・紛失の際は、警察に届け出る。

- 食べられません。
- 有効年月内に使用する。
- 体調の悪いとき、妊娠中、飲酒後等は取扱い及び作業をしない。